

# 町村議会議員研修会に参加

## 未来のすべては 過去の中にある

平成30年度の北海道町村議会議長会主催の議員研修会が、7月3日に開催された。議員17名が参加。講師は歴史家で作家の加来耕三氏と、日本大学教授でテレビ、新聞等で政治問題について評論活動を行う、岩井奉信氏の2名。



加来耕三氏

加来氏が、「明治維新から150年、現在そして未来を考える」の演題で講演。ペリー来航を機に明治維新が始まったとされているが、実はその13年前に、中国がアヘン戦争で英国軍の44倍の軍隊を擁しながら負けたことに、島津斉彬が日本は物理と化学が立ち遅れていることに危機感を持った時とされている。歴史は循環しており、似たような人物、同じような出来事があった筈で、それをよく見詰め検

証し、未来を考えるべきと提言。全てが終わった後にあーすれば、こーすればと言っても駄目であり、歴史を活用し分析すれば、未来は見えてくると講話した。



岩井奉信氏

岩井氏は、自身の大学の運動部の問題を、ユーモアを交えながら話され、初期の対応の誤りが問題をより大きくしてしまったと語った。混乱する国会も早く丁寧な説明を怠ったことが起因しているとの話から、現状の政局の動向を話された。企業業績も雇用状況も良く、経済の数値は良いが、デフレは脱却していない。北朝鮮の影響で支持率は持ち直しているが、来年の参議院選挙に合わせ、消費税延期をブチ上げ、衆議院を解散し、ダブル選挙も考えられると話を締め括った。



## 3議員に自治功労賞表彰

6月12日に開催された北海道町村議会議長会の定期総会において、佐藤和也議長、高瀬博文副議長、守屋いつ子議員が、議員として15年の永きにわたり、町村自治の振興発展に尽くされた功績により表彰を受けました。



佐藤 和也 議長



守屋いつ子 議員



高瀬 博文 副議長

なお、久野由美議員は、表彰を辞退しています。

## 編集後記

北海道と命名されてから150年。夏の甲子園の高校野球は、第100回の記念大会。「広報おとふけ」も1000号目が5月にリニューアルされ発行。他方で、町の人口が4万5千人を割りました。今年は色々な面で節目の年と私は感じています。「議会だより」も前号190号を節目に町民モニター制度を導入。高校生から70代の方まで、11名の皆様のご意見を拝聴することにしました。委員会独自でも、文字を大きくするなど、より見やすくするように検討しています。「地方議会のあり方調査特別委員会」の町民アンケート調査で、「議会や議員の姿が見えない。活動がわからない。」という意見が多数寄せられています。議員の姿や活動を、より身近に感じ知っていただくためにも、当委員会の果たす役割は大きいと、あらためて思うところですので。

編集委員長 堀江 美夫